

（午後2時20分 再開）

○議長（土井裕美子君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番5、2番 垣内さん。

〔2番（垣内憲一君）登壇〕

○2番（垣内憲一君）皆さん、こんにちは。

まず、全国でコロナウイルスに感染され、治療されている皆さまが1日も早く回復されることをお祈り申し上げます。

また、橋本市民の皆さまには感染予防として、手洗い、うがいの徹底をよろしくお願い致します。

また、職員の皆さまには、夜遅くまで市民の皆さまのために、コロナウイルス対策に尽力をいただき、ありがとうございます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。

1、本市出身の著名人との地域おこしについて。

本市出身の著名人を本市の地域おこしにつなげてほしいと思い、質問させていただきます。

本市には、メジャーリーガーとなる野球選手の筒香嘉智さんのほか、俳優の溝端淳平さんが芸能界で活躍されています。

例えば、溝端淳平さんが橋本マラソンや「まっせ・はしもと」に来てくだされば、来場者がぐんと集まり盛り上がることや、伝統的地場産品の紀州へら竿を使ってへらブナ釣りを体験していただければ、へら竿の注目も高まることが予測されます。

また、これをマスコミが取り上げることで、名産の柿やパイル織物などの知名度も広まり、

本市のPR、活性化に大いにつながると考えます。

本市の宝探しというわけではありませんが、本市出身の著名人と地域おこしに向けたコラボレーションを申し出てはいかがでしょうか。

これまでさまざまな取り組みを行ってきたとは思いますが、さらなる企画や発案を期待して、お伺いします。

①観光大使へのお願いについて。

②地域おこしへのコラボレーションについて。

③ふるさと納税へのお願いについて。

2番、変革と挑戦に向けた取り組みについて。

令和2年1月6日の仕事始めにおいて平木市長から、今年に変革と挑戦の年にしたい、少子高齢化に向けた取り組みが必要だという内容の訓示がありました。

厳しい財政状況が続きますが、近い未来の新しい施策につながることを望んでお伺いします。

①新しい少子高齢化対策の方向性について。

②働き方改革や業務効率化に向けた構想について。

③令和2年度当初予算編成の目玉について。

以上、壇上からの質問を終わらせていただきます。明確な答弁をよろしくお願い致します。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さんの質問項目1、本市出身の著名人との地域おこしに対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）本市出身の著名人との地域おこしについてお答えいたします。

まず、一点目の観光大使へのお願いですが、観光大使は、観光はもとより地域振興のための象徴的存在として広報活動に携わる人であり、ご当地にゆかりのある著名な方を任命することで地域のPR活動を行っている自治体が増えています。

観光大使を任命して地域のプロモーション活動を行うことにより、あまり認知されていない地元の観光スポットや特産品などの魅力をより多くの人に知ってもらい、経済効果につなげることが期待できます。

本市は平成27年度に橋本創生総合戦略アクションプランを作成しました。その中で、魅力ある農林業振興として農産物のブランド化を具体化するため、有名人とのタイアップによる農産物のブランド化事業を計画しました。

事業を具体化するために協力いただく本市出身著名人として、筒香嘉智さん、溝端淳平さんを考え、その実現に向け、家族の方や関係者等と調整、協議を図りました。

筒香嘉智さんについては、約2年にわたる調整を行いました。この間の調整の中で本市からは、ふるさと親善大使、観光大使等の提案もさせていただきましたが、児童や生徒に直接かかわり、夢を語り、体力向上をめざすアドバイスをさせてもらいたいとの本人と家族の思いを大切に、平成31年1月よりスポーツ推進アドバイザーとして就任いただいているところです。

溝端淳平さんについては、調整の過程で直接本人にもお話しする機会が持てましたが、商品としての溝端淳平であるので、本市への直接的な協力については個人の意思ではなかなか難しいとのことでありました。また、所属事務所等関係機関との調整を図りつつも、実現に至っていない状況です。

次に、二点目の、地域おこしへのコラボレーションですが、筒香嘉智さんについては、

平成30年度にはスポーツ指導者研修会、児童とのミニ運動会、また、令和元年度には筒香選手とのトークやエクササイズを開催しました。マスコミ等で大きく取り上げられ、橋本市のPRにつながったと実感しているところです。

溝端淳平さんについては、残念ながら、地元地区で開催しているイベントにさえ出演がかなわなかったということもあったようです。

最後に、三点目のふるさと納税については、毎年開催している東京橋本会や東海和歌山県人会などでもPRしており、経済界などで活躍されている会員の方々にも広くお願いしているところです。

なお、現段階では、さきの兩名に対し、ふるさと納税に関して特段のお願いはしていません。

**○議長（土井裕美子君）** 2番 垣内さん、再質問ありますか。

2番 垣内さん。

**○2番（垣内憲一君）** 答弁ありがとうございます。これまでの取り組みを聞かせていただき、筒香選手が橋本市スポーツ推進アドバイザーに着任した経緯などはよくわかりました。ありがとうございます。

いくつか再質問させていただきます。

橋本市において、現状、観光大使が実現していないことはよくわかりましたが、観光大使だけでなく、本市として大使という名称で実現していることがあれば教えてください。

また、効果のほうも教えていただけたらありがたいです。

**○議長（土井裕美子君）** 経済推進部長。

**○経済推進部長（北岡慶久君）** 大使についてですが、柿の消費拡大と「まっせ・はしもと～柿まつり～」を市内外にPRしていただくため、昨年9月に橋本かき大使2名を公募募集し、複数以上の申し込みがありましたので、

面接等の選考を経て2名を委嘱させていただきました。

お二人には、橋本市のPRはもちろんのこと、柿PR、「まっせ・はしもと」PRに意欲的にかかわっていただきました。

具体的には、名古屋市で開催された柿のトップセールス、なんばスカイオにて開催した「まっせ・はしもと」PR、県立橋本体育館で開催した「まっせ・はしもと」当日における活動など、延べ14日間です。

PRの効果も大きく、「まっせ・はしもと」については過去最大の集客、約1万9,000人となり、市内外からたくさんの方にお越しいただく事業となりました。

この大使については、先ほどご答弁させていただいた著名人ということではありませんが、事業PR等をしていただくという目的のために公募させていただいたところです。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）橋本かき大使が2名、公募で協力いただいたということで、本当にありがとうございます。また、「まっせ・はしもと」では過去最大の約1万9,000人の皆さまに来ていただいたということで、感謝申し上げます。今年ももたくさん人が集まっていたけりよう、また努力してください。よろしくをお願いします。

次に、和歌山県全体を見た場合に、最近、特に和歌山市において、ラルクアンシエルのハイドさんが観光大使に委嘱されたということですが、観光大使になった経緯とか、ご存じでしたら教えてください。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）おただしにお答えさせていただきます。

和歌山市出身であるハイドさんですが、ハイドさんの同級生らが和歌山市に対して大使としての推薦をされ、新設された市出身者の

みを対象とするふるさと観光大使に委嘱されたと聞いております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

いまや和歌山線の南海電鉄電車ですか、にハイドさんのラッピングもされていますし、かなりの効果があると思うんです。

溝端淳平さんの事務所に、例えば、橋本市の柿を送っていただくとか、紀州のへら竿を送っていただく、また、パイル織物でつくったかばんとかを送っていただいて、また、それをプレゼントさせていただいて、淳平さんが柿を食べている写真とか、また、へら竿を持っている写真とか、そういうのを写真を撮っていただくだけでもかなり効果はあると思いますので、引き続き事務所とのやりとりもやっていただけたらありがたいです。

教育委員会のほうにお聞きしたいんですけども、筒香嘉智選手がスポーツ推進アドバイザーとして、昨年、また、本年度実施したことによる効果について、教育委員会や経済推進部として、どういうふうに考えているか、教えてください。

○議長（土井裕美子君）教育部長。

○教育部長（阪口浩章君）筒香嘉智選手がスポーツ推進アドバイザーとして実施した事業の効果ということで、まず、教育委員会のほうでは、平成30年度は橋本市スポーツ指導者研修会やミニ運動会を開催しました。

本年度につきましては、スポーツ推進アドバイザー事業として、筒香嘉智選手が幼少から体づくりとして実行していたエクササイズや、これまでポジションを整えるために取り入れてこられた目の使い方やトレーニング方法を専門家から学ぶ講義など、園児、児童、それから、指導者、保護者向けに実施しております。

エクササイズに参加している児童につきま

しては、まず4回にわたり、投げる、打つ、走る、競技するというテーマに基づきまして、体を精いっぱい動かし、失敗することを恐れずにチャレンジをしていただいています。

また、本年1月18日に開催しました筒香選手とのトークとエクササイズ体験会では、児童、それから、指導者、保護者の方、約300名の参加者を得て、筒香選手が直接子どもからの質問に答え、失敗することは恥ずかしいことではない、失敗を恐れずにチャレンジしてくださいというメッセージをいただきました。

また、筒香選手が小さいときから取り組んでいるエクササイズを披露していただき、子どもたちもブリッジや三点倒立などの体操と一緒に取り組みました。

これらを通じての効果なんですけども、児童、指導者、保護者の方々については、やはり、日本の4番、また、現役メジャーリーガーと直接、また、間接的に触れ合える機会を得ることができました。特に参加した児童につきましては、いきいきとした輝きを放っていたというふうに私は感じました。

そういう中で、児童、そして、ボランティアとして参加してくれた中学生、指導者、保護者など参加者の皆さんは、筒香選手とのわずかな時間での体験でしたが、市民との誇り、それから、これから進むスポーツへの道に対して、大きな夢を持っていただけたのではないかなというふうに思っております。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）筒香嘉智選手が橋本市スポーツ推進アドバイザーとなって、先ほど教育部長からお答えさせていただいた事業がマスコミ等で広く報道されることによって、本市出身であるということが広く周知され、橋本市のPRにもつながったのではないかなというふうに思っています。

壇上でもお答えさせていただきましたが、観光大使ということは実現しておりませんが、経済推進部における企業誘致や、それから、はしもとブランド推進等の交渉や関係機関の方との協議の中で、筒香さんは橋本出身やなというふうに話題にさせていただくことも本当に多くなっています。

経済的な効果というところでいきますと、やはり、計画に上げた当時は、筒香選手や溝端淳平さんに橋本地域でつくった農産物を食べていただくという、そういった夢があって計画に上げさせていただきましたので、来年度、スポーツ推進アドバイザー事業が開催される中で、そういったことも遠慮なく実現できるような連携を教育委員会とも取り組んでいきたいと、そんなふうに考えています。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

筒香選手から、失敗することは恥ずかしいことではない、失敗を恐れずにチャレンジしてくださいと、本当にこれも、子どもたちだけではないに、我々もやっぱりこの言葉を心に入れて、やっぱりこういうことを思いながらチャレンジしていくということが大切じゃないかなと私も思います。

今、筒香選手が橋本市に来てくれるとかそういうことを、テレビや新聞、ネットなどの情報媒体に取り上げるために何かアクションは起こしていますか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）市で行われておりますさまざまな事業等といいます情報は、橋本市記者クラブへの資料提供をはじめ、ホームページ、SNS等を活用した情報発信により、情報媒体に取り上げていただけるよう努めています。

特に、経済推進部関連事業は本当に多くありますので、マスメディアが多く出席される

会合等に参加することや、こまめな情報提供をするという、記者との良好な関係を築くということが記事として取り上げていただけるよう大事なことだというふうに思いますので、引き続き地道な努力を進めたいと思います。

なお、筒香嘉智選手の事業の際には、大手新聞社、スポーツ新聞等、20名以上のマスコミの方も来られていましたので、そういった方にも引き続き丁寧な情報提供を、教育委員会と連携して努めたいと思っています。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

マスコミの方とかそういう記者クラブの方とお友達になって、ちょっとでもそういうのを情報を載せていただけるような、橋本市をちょっとでもほかの皆さんに知っていただけるような、そういう友達になっていただけたらありがたいなと思うんですけども、今、ターゲットにしている、今後、ターゲットにしている人物やマスメディア等とかはございませんでしょうか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）ターゲットということでご質問ですが、非常にお答えもしづらいんですが、筒香嘉智選手については、ヒットを打った、ホームランを打ったということでも、これはもう毎日のニュースのように報道されています。私たちとしても引き続き飛躍することを期待しています。

そういった中で、今、ほかにターゲットということと言えますと、橋本市出身のいろんな文化活動等で活躍されている方、まだ私たちが気づいていないところでも活躍されている方がおられると思います。

観光大使ということについては、どなたにさせていただくということも非常に大事なんですけど、どのような業務をしていただくのかっていうところを私たちがしっかり頭をやわ

らかくして考える必要があるのじゃないかなというふうにも思っていますので、そういったところも含めて検討を行いたいと思います。

マスメディア等については、先ほどのご質問でお答えさせていただいたとおりです。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

よく橋本市でポスターとかを見させていただいたら、尺八奏者の辻本好美さんや太鼓芸能集団鼓童出身者で太鼓奏者の小田洋介さんなんか、もう世界中を回っておられる方もおられますし、また、引き続きそういう人達とも交渉していただいて、橋本市のPRを少しでもしていただけるようお願いしていただけたらと思います。

今後、本市を売り出していく、地域おこしにつなげていくほかの戦略、構想などはございますでしょうか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）地域おこしにつなげていく戦略ということでは、いきますと、具体的なお名前を挙げて、どのような取り組みをとということには、現段階では至っておりません。

市全体として橋本市のPRをもっとどのようにするのか、それから、観光という意味合いで橋本市にいかに来ていただけるような情報発信をするのかということところが非常に大事だと思いますので、議員からご提案いただいていることも含めて、引き続き、私たちしっかり頑張っていきたいと思っていますので、ご理解いただきたいと思っています。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

SNSを活用した情報配信とかということもなんですけども、例えば、橋本市のホームページとかフェイスブックを見させていただいて思うことがあるんですけど、今、よくSN

Sのフェイスブックとかでしたら、ハッシュタグというのをつけて、言うたら、検索される人が、例えばおもしろいと言ったときに、橋本市がそのハッシュタグをつけることによって、あ、おもしろい橋本市とか出てくるとか、子育てしやすい、釣り竿とか柿とかパイル織物とか、そういうのをに入れていただくとかしていただきたいというのものもあるのと、例えば、市民課のホールの前に展示しています筒香選手の記念品があるじゃないですか。そこに、例えば、筒香選手の等身大のパネルを置かせてもらって、横に顔出しの、何て言うんですか、旅行とか行ったらよくあるような、ああいうのをちょっとつくって、話題性のあるようなもの、楽しくなるようなものをつくっていただきたいなあと、そんなんもええんじゃないかなと思います。

僕が今、最近思うのが、僕、市長の笑顔ってものすごく好きなんです。本当に優しい笑顔をされていますので、例えば、フェイスブックの待ち受け画面を市長の似顔絵で、楽しい橋本市とか、何かそういうのをつくっていただけたら、本当にいいキャラクターというか、はしぼうと一緒にそういうのをつくっていただけたら、僕はええんじゃないかなと。

何せ話題性のある、そういうのをちょっと考えていただきたいというのを要望しまして、一つ目の質問を終わらせていただきます。

○議長（土井裕美子君）答弁は。要望だけでよろしいですか。

○2番（垣内憲一君）はい、結構です。

○議長（土井裕美子君）市長、答弁はよろしいですか。

市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）垣内議員の質問にお答えします。いろいろ褒めていただきまして、ありがとうございます。

私たちこれから橋本市を売り出していくために考えていかなあかんのは、一つは、橋本市は観光地ではないという認識を、今、観光と経済推進部長は言いましたけども、観光地ではないというふうな認識を持って次に行動していかなあかんのかなというふうに思っています。

橋本市だけの力では多くの観光客を呼び込むことは不可能ですし、やはり、他の市町との、あるいは団体との協力なくしては、やっぱり観光振興、橋本市を売り出していくことはできないかなというふうに思いますし、SNSであつたりハッシュタグであつたり、そういうこともやっていますけど、やっぱり全体の認知度が低いというふうに思っています。

確かに、橋本市には筒香君であつたり溝端君であつたり、これは肖像権の問題があつて、市報にさえ写真を載せることは断られています。

そういう中で、写真を撮ってというのも難しい中で、やはりその中で今考えていかなあかんのは、民間にもう少し、地域振興とか観光振興を進めていけるような、筒香君と同じ立場ではないんですけども、民間にちょっと観光推進アドバイザー的なものを協力してもらって、橋本市をもう一度、どうしても役所で考えると、これがだめや、これがだめや、昔はこうやったけど全然応募がなかったという考え方があるものですから、民間の方に今、1人お願いしているんですけど、そういう人たちに、その人は結構あちこちでそういう人集めに、いろいろ考えてくれていて、こういう方法ができますよ、参加費もこういう形で集められますよというふうなことも、今考えている方に観光推進アドバイザーを委託しようかなというふうにも考えています。

これからはいろいろ工夫してやっていきたいと思っておりますので、またいろいろご意見を拝

聴した中で、できることはやっていきたいというふうに思いますし、私の等身大だけはやめてください。それだけはお願いしておきます。

○議長（土井裕美子君）質問項目1は終了いたしました。

次に、質問項目2、変革と挑戦に向けた取り組みに対する答弁を求めます。

総合政策部長。

〔総合政策部長（上田力也君）登壇〕

○総合政策部長（上田力也君）変革と挑戦に向けた取り組みについてお答えします。

日本が抱える大きな社会問題として、近年、人口減少、少子高齢化の進行が取り上げられ、特に地方ではそのスピードが急激に加速している状況があります。

人口減少に起因した労働人口の減少は、生産性の低下、消費の落ち込み、さらには社会保障給付費の増加等にも影響し、今後さらに厳しい行財政運営が想定されます。

その一方、新技術の発展等により、5G、AIやRPAなど大きなイノベーションの波が生まれ、経済発展と社会的課題解決を両立させるSociety5.0の観点に基づいた取り組みも必要となってきます。

こうした急激な変化による時代の転換期を迎え、市としても、前例にとらわれない変革を意識した行財政運営や、これまで築いてきた政策を礎に、次の段階へと事業を着実に進めていく新たな挑戦が必要であると考えます。

現在策定中の第2期橋本市子ども・子育て支援事業計画や第7次橋本市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画に基づく地域包括ケアシステムの構築に向けても、変革と挑戦の意識を持って進めていきます。

また、事務作業の自動化を進めるため、RPAやAIなどの新たな技術や仕組みを取り入れることにより、職員の負担を軽減し、生

じた余力を企画立案や対面での相談など付加価値の高い業務に振り向けることで、持続的に住民サービスを提供できる体制づくりをめざし、あわせて職員の働き方改革にもつなげていきたいと考えています。

最後に、令和2年度一般会計における目玉事業としては、子育て支援施設の充実を目的に、岸上保育園、柏原保育園、山田保育園の3園を統合し、民設民営のこども園である山田さつきこども園の新築に係る整備費補助金や、たんぼぼ園の新築工事費など、いずれも令和3年4月の開園に向けた施設整備予算を充実しています。

また、工業団地造成事業特別会計では、活力ある産業を育成し、若者が地元で就労し定住できるまちづくりをめざすとともに、雇用の場を創出することを目的に、南海電気鉄道株式会社、和歌山県、橋本市の3者で協定を締結し、橋本市が事業主体として開発を進めているあやの台北部工業団地第1地区造成事業において、本格的な造成工事实施のための予算を提案しています。

なお、この議会における補正予算での提案とはなりますが、小・中学校の安全の確保と施設の長寿命化を図るため、屋内体育館照明器具の落下防止改修事業やトイレの改修事業、校舎や屋内体育館に係る外壁の改修事業など、大規模改修事業を提案したほか、追加の予算として、国の令和元年度補正予算で示されたGIGAスクール構想の実現に向け、国庫補助金を活用し、市内の全小・中学校にWi-Fiによる高速校内ネットワークを整備するとともに、端末の充電保管庫を購入するための予算も提案しましたので、後日、ご審議のほどよろしくお願いたします。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん、再質問ありますか。

2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君) どうもありがとうございます。

変革と調整に向けた取り組みについて、何点か再質問させていただきたいんですけども、少子高齢化対策の方向性について、まず、一点目の少子高齢化対策についてですが、今回は変革と挑戦に向けた少子高齢化対策の方向性をお聞きしたいので、具体的な新しい施策をすぐに実施してほしいとかそういうものではありません。

しばらく財政面が厳しいという状況が続くと思うんですが、少子化対策では、まず、こども園整備計画やたんぼぼ園新築移転のハード事業を優先するということがよろしいでしょうか。

○議長(土井裕美子君) 健康福祉部長。

○健康福祉部長(吉田健司君) 議員のおただしにお答えします。

平成30年度末で、0歳の子どもの数は350人を下回っております。例年、出生数が減少しているところです。

この傾向を受けて、健康福祉部、特にこども課サイドでは、少子化対策に向けた子育て支援政策を拡充しているところですが、財政的に非常に厳しい時代でもありますので、当面は、公私連携方式である山田さつきこども園整備計画と、たんぼぼ園新築移転計画を進めていきたいと考えています。

幼児教育・保育の受け皿の確保については、ハード事業にとりあえずは力を入れていきたいと考えております。

○議長(土井裕美子君) 2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君) 平成30年度末の0歳児の子どもが350人を下回っているという深刻な状況になってきていると思うんです。私も将来的に少子対策には婚活支援や子育て支援施策を拡張することができればいいと思っておりますが、私は何度か保健福祉センターで

開催されています橋本市子ども・子育て議会を傍聴させていただきました。2期計画のソフト事業はハード事業の後に取り組むということによろしいですか。

○議長(土井裕美子君) 健康福祉部長。

○健康福祉部長(吉田健司君) お答えします。

子ども・子育て支援事業の2期計画は令和2年度から6年度までの5年間の事業となります。ニーズ調査も行いました。現在実施している事業で継続を必要とするソフト事業はうたってありますので、ハードとソフトの同時並行で進める形にこの計画はなります。

2期計画を作成することで少子化対策に向けたソフト事業をより充実させたいところですけども、さきのこども園整備計画等を優先することや幼児教育・保育の無償化で、令和2年度から市負担が増えることとなります。新たな子育て支援策としては、財源状況を鑑みて、長期的な視点でその方向性を定めたいと考えております。

○議長(土井裕美子君) 2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君) ありがとうございます。

いきなり改革とはいかなくても、令和2年度に向けて前進するような子育て支援への取り組みがあれば、教えていただきますでしょうか。

○議長(土井裕美子君) 健康福祉部長。

○健康福祉部長(吉田健司君) お答えします。

令和2年度は概ね現状維持の継続となりますけども、一つの取り組みとして、公私連携のこども園整備計画を進めるのと並行して、令和3年度に向けて、これまで岸上保育園で実施していた0歳児保育の受け入れを紀見保育園で継承したいと考えております。

これは待機児童問題の解消のみをめざすだけでなく、公立ならではの保護者の支援を含めた丁寧な保育の受け入れを継承したいと考えています。



また、機構改革を行った子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」とこども課の横の連携を強化し、妊娠期から18歳までの切れ目のない支援を、児童虐待防止も含めて、子どもだけでなく、支援を必要とする家庭を含めたサポートを継続していきます。

センターの保育士や発達相談員などの専門職と、こども課の各課手当と医療の給付、幼児教育の受け入れなどを連携してサポートする体制を強化していきたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

0歳児の受け入れを紀見保育園で継続していただけるとか、妊娠期から18歳までの切れ目のない支援を引き続き頑張っていただけるということで、こういったことで市民の皆さまの家計に優しい、働きやすい環境がつけられると思いますので、これからも引き続きよろしくをお願いします。

次に、高齢者対策としてなんですけど、第7次高齢者保健福祉計画は、地域包括ケアシステムの変革、挑戦を目標に取り組んでいるとは思いますが、具体的にはどのようなことでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）お答えします。

医療や介護、介護予防、生活支援、住まいを一体的に提供できるよう、地域ごとの高齢者のニーズの状態に応じたサービスや助け合い活動を切れ目なく提供できるよう支援していくことが重要と、この計画ではうたっています。

そのため、高齢者が自立した生活を送るための支援として、高齢者の生きがいづくりを推進し、積極的な社会参加を促進しています。

いきいきルーム運営やげんきらりー自主運営教室、いきいき百歳体操教室、ラジオ体操、ウォーキング事業などを、高齢者のニーズを

把握しながら積極的に介護予防活動に取り組むよう推進していきます。

以上です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

高齢者のニーズを把握しながら、積極的に介護予防活動に取り組むということで、よろしくをお願いします。

働き方改革や業務効率化に向けた構想になるんですけども、これからどんどん少子高齢化が進む中で、職員数も確保しづらい状況になると思います。業務の効率化をめざす新しい組織や体制の検討はされていますでしょうか。

○議長（土井裕美子君）総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）総務省において立ち上げました自治体戦略2040構想研究会におきましても、人口減少時代においても自治体が担うべく役割を発揮していくためには、AIやRPAなどの活用が重要であるというふうなことが報告されております。

本市におきましても、平成30年度に総務省の業務改革モデルプロジェクトの補助金を活用いたしまして、RPAを活用した業務効率化に取り組んでおります。12事業で約417時間の削減効果がありました。

今年度も新たに総務省の補助金を活用しながら、ふるさと納税の台帳作成業務、あるいはアンケートの集計業務など、RPAを導入した展開をしておるところでございます。

また、新しい組織につきましては現時点では検討しておりませんが、今後も引き続きましてAIやRPAなどを活用して、持続的に住民サービスを提供できる体制づくりに取り組んでまいります。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

AIやRPAを導入するという事なんで

すが、効果が高いと思われる業務の洗い出しとか、そういうのはもうできていますでしょうか。

○議長（土井裕美子君）総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）平成30年度に実施しますとRPAの導入時ですけれども、住民の皆さんからの申請書の入力事務など窓口事務を中心として、導入効果のありそうな業務の洗い出しに取り組んでおります。

今年度におきましては、財務会計処理などの内部管理事務においてAIやRPAによる効果が見込める作業の洗い出しを行っております。

その結果、来年度では受信メールの関連作業、あるいは、支出伝票作成作業などの事務や保育園関係書類など窓口事務においてもAIを活用したOCRとRPAを連携させることで、より大きな効果が見込めるものとして、業務の効率化に取り組むこととしております。

また、会議録作成の迅速化と負担軽減を目的として、AI音声認識技術による議事録作成支援にも取り組む予定としております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

今後、AIやRPAなどを進めるに当たっての課題は何かございますか。

○議長（土井裕美子君）総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）今までの取り組みの中で一定の効果はありましたけれども、RPAのシナリオの作成など、ある程度知識が必要なことから、活用できる人材を育てることが課題となっております。

また、機器の導入など職員のインシヤルコストがかかることから、国の補助金を活用したり他の自治体と連携してスケールメリットを出すなどの取り組みを考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

これから人手不足や財源状況が厳しいのは重々わかっております。そんな中でも試行錯誤しながら、新しい施策づくりを、労働力の作りだす、そういう発想を皆さんで考えていただきたいと期待しておりますので、これで質問を終わらせていただきます。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さんの一般質問は終わりました。

この際、3時20分まで休憩いたします。

（午後3時5分 休憩）